

J Sights Corporation

コラーゲンパウダー（ポーク）の現況と今後

2025年11月21日

齋藤 政人

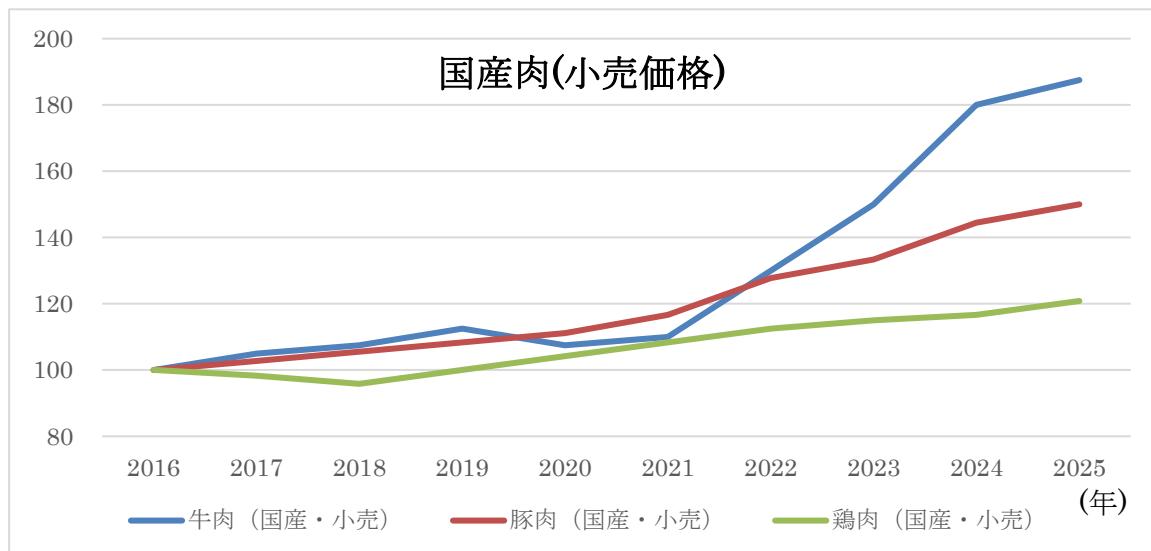
弊社は海外よりコラーゲンパウダーを輸入している。主にハムやソーセージ、ベーコンなどの保水・保油を目的として使用され、歩留まり改善などが期待される機能性たんぱくである。

コラーゲンパウダーサプライヤーとの面談時に今後の価格見通しについて話があったため、本レポートに記載する。なお、面談時に聞いた内容でありデータの出典元などはないことをご了承いただきたい。

足元のポークコラーゲンパウダーの価格は安定的に推移している。ここ数年続いている過度なインフレの改善や原料(豚皮)価格の安定によるものだ。前レポートにも記載したが、豚皮価格の安定は豚皮の総消費量の60%をしめるゼラチン向けの需要が弱いからである。豚皮は2022年より価格が急騰し、2023年には2021年比で約3倍まで上昇した。特に欧州のゼラチン会社は現在も当時高騰した豚皮の影響があり、在庫を多く抱えている。そういったゼラチンマーケットからの買い控えによって豚皮価格が安定しており、2026年も大きな変動は予想されていない。よってポークコラーゲンパウダーも多少の上昇は考えられるものの、安定的な価格推移が予想される。

他方、弊社が日本国内で営業活動をしていると弊社顧客の反応が変わってきてている。既に使用している各ユーザー、今まで使用されてこられなかったユーザー共に最終製品の歩留まり改善のために使用方法の見直しを行いたい、新しく使用したいとの反応がここ数年増えている。話を聞くと、今まででは肉の種類の変更、部位を変更などしてコスト削減に努めてきたが足元はそういった努力だけでは難しい状況になってきているという。

参考までに日本で流通している主な肉として牛肉・豚肉・鶏肉の価格推移を調べた。

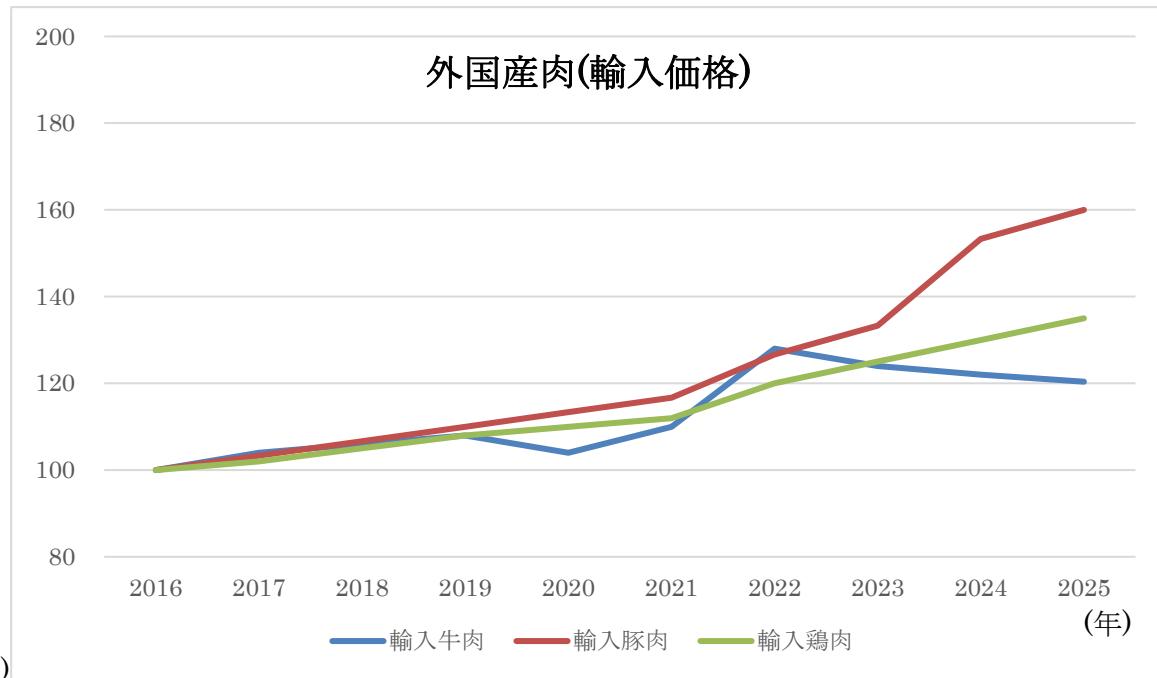


※2016年の価格を100として指数化

※2025年の入手可能な月次データを基にした暫定年平均価格を作成した後指数化

※農林水産省「食品価格動向調査（食肉・鶏卵）」やe-Stat / 消費者物価指数・品目別価格指数（全国）などのデータを使用し、J Sights株が作成。

J Sights Corporation



※2016 年の価格を 100 として指数化

※2025 年の入手可能な月次データを基にした暫定年価格を作成した後指数化

※農林水産省「食品価格動向調査（輸入牛・豚・鶏）」や PIIF（JMTC）等の「輸入肉の価格指数」のデータを使用し、J サイツ㈱が作成

上記グラフの通り、日本の食肉価格は過去 10 年でばらつきがあるものの上昇している。弊社は経済見通し(他国と比較した相対的経済力の低下や日本の低成長継続)や人口動態(労働人口減少による輸入品の増加)からも価格上昇の傾向は今後も続くと考えており、そうなった場合には弊社のコラーゲンパウダーは使用例が増えると予想している。また、弊社ではポークコラーゲンパウダーはだけでなく、ビーフコラーゲンパウダー、チキンコラーゲンパウダーと多く種類を取り扱っている。そのため、多くの最終製品に対応可能であり多くの最終製品の改善に貢献していきたい。

弊社では、様々なたんぱく商材を数多く取り扱っております。

ご興味のある方はお気軽にお問合せください。

[お問い合わせフォーム](#)